

2025年4月(第15号)

# 地域生活習慣病・内分泌学講座 年報 (15年間の総括)

愛媛大学 大学院医学系研究科 地域生活習慣病・内分泌学講座  
〒791-0295 愛媛県東温市志津川 454

TEL: 089-960-5308 FAX: 089-960-5310

<https://www.m.ehime-u.ac.jp/course/地域生活習慣病・内分泌学/>

サブセンター：済生会小田診療所

〒791-3501 愛媛県喜多郡内子町小田 130

TEL: 0892-52-3151 FAX: 0892-52-4085

<https://www.saiseikai.or.jp/facilities/3602-0046/>

## 専任教員

教授：松浦文三	(2010年4月1日～2025年3月31日)
准教授：三宅映己	(2025年4月1日～)
助教：三宅映己	(2010年4月1日～2011年8月31日)
重松秀一郎	(2011年9月1日～2012年5月31日)
布井弘明	(2012年6月1日～2015年6月30日)
有光英治	(2015年7月1日～2016年2月29日)
山本晋	(2016年3月1日～2019年3月31日)
仙波英徳	(2019年4月1日～2020年3月31日)
中口博允	(2020年4月1日～)

## 目 次

地域生活習慣病・内分泌学講座 15年間の総括と大学退任を迎えて

愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学講座 教授 松浦文三

寄稿

愛媛大学 医学部長/研究科長 羽藤直人

愛媛大学 附属病院長 杉山隆

内子町 町長 小野植正久様

愛媛大学 地域医療支援センター長 高田清式

済生会小田診療所 所長 今野敏伸

愛媛大学 地域医療学講座 教授 川本龍一

愛媛大学 附属病院 栄養部長 利光久美子

愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学 助教 中口博允

内子町 保健福祉課長 上野昌宏

内子町 保健福祉課 保健師 吉岡佳奈, 中川真希

講座の 2024 年度活動報告

大学内において

内子町において

講座の 2024 年の研究業績

メディアでみる地域生活習慣病・内分泌学講座の 2024 年

編集後記

## 地域生活習慣病・内分泌学講座 15 年間の総括と大学退任を迎えて

松浦文三

2025 年 3 月 31 日をもちまして、愛媛大学 大学院医学系研究科医学専攻 地域生活習慣病・内分泌学講座の教授を退任しました。1984 年 3 月に愛媛大学医学部を卒業して第三内科に入局し、後期研修として済生会小田病院に 3 年余り、学位研究が終わった後に国立療養所愛媛病院(現国立病院機構愛媛医療センター)に 3 年余り、そして米国 Mayo Clinic への留学の 1 年を除く 33 年間に愛媛大学で過ごしたことになります。

2010 年 4 月に愛媛大学と内子町との連携により地域生活習慣病・内分泌学講座(寄附講座)が開設され、初代の責任者として私が就任しました。以来、本年 3 月で 15 年間に終了しました。開講当初から講座の役割として、1) 内子町の地域医療支援(済生会小田診療所)、2) 内子町の保健医療行政への協力、3) 医学部生から卒後研修医に対する一貫した生活習慣病・内分泌学・病態栄養学の専門医の育成、の 3 点を挙げております。

内子町の診療支援に関しては、済生会小田診療所の診療支援を専任教員 2 名で週 2 日受け持ち、生活習慣病、内分泌疾患、消化器疾患を中心に診療を行うとともに、附属の老健施設ふじの園、特別養護老人ホーム緑風荘の支援を行いました。2014 年 4 月に小田診療所は無床診療所に縮小されましたが、小田地区の地域医療の拠点を維持しています。内子町の保健医療行政への協力に関しては、内子町の死因統計、国保レセプトから、生活習慣病、特に糖尿病に起因する疾患での死亡や透析導入例が、愛媛県他の地域よりも多いことが判明したため、「地域健康教室」を小田地区、内子地区、五十崎地区、事業所と開催し、全世帯の 1/2 以上、延べ 2000 名以上の参加を得ました。また、年 1 回は生活習慣病やがん検診などのテーマを取り上げ、中央での「市民講座」や「高齢者大学」「婦人会講座」を開催しました。経過中、2020 年 3 月から 2024 年 4 月までは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止のため、活動が一部制限されましたが、全体としては、内子町における高血圧症、糖尿病、慢性腎臓病の減少、医療費の減少が達成できました。内子町における医学部教育・研修医指導に関しては、小田診療所、老健施設、特別養護老人ホームにおいて、15 年間で、医学部 1 年生 38 名の早期体験実習の指導、5 年生 4 名の地域医療実習の指導、卒後 2 年目の初期研修医 43 名の地域医療研修指導を行いました。特に医学部 1 年生の実習では、2022 年からは、学生に実際に保健行政、地域医療にも触れてもらうため、1 日は保健師活動に同行し、また保健師との意見交換を企画しました。愛媛県の地域医療を意識した医師が育ってくれることを期待しています。

大学内においては、学部教育では、第三内科担当の 35%の領域を占める生活習慣病、内分泌・代謝学、病態栄養学、地域医療に関する講義、医科学実習、OSCE 実習、ポリクリ実習、クリクラ実習の指導を受け持ちました。また第三内科の初期研修医 200 名以上の研修指導も協力して行いました。内分泌専門医、甲状腺専門医、糖尿病専門医、病態栄養専門医の取得のための研修指導も行い、15 年間で、内分泌専門医 9 名、甲状腺専門医 7 名、糖尿病専門医 16 名、病態栄養専門医 5 名が誕生しました。

研究面では、消化管ホルモンやその受容体の解析、インビボ・イメージングを用いた研究、非アルコール性脂肪性肝疾患の病態解析、バセドウ病の病態解析などに関して、学位研究の指導を行い、14 名が学位を取得しました。特に消化管ホルモン関連では、京都薬科大学や米国の Mayo Clinic, Boston Children's Hospital, Beagle Bioscience 社、ベルギーの Leuven 大学との共同研究を行い、現在も継続中です。柑橘の機能性成分について愛媛大学農学部や金沢大学、浜松医科大学、農研機構果樹研究所との共同研究を行い、(株)えひめ飲料での商品化に協力しました。また、愛媛県下

の糖尿病関連腎臓病重症化予防の取組みの臨床研究を、第三内科関連施設および賛同頂いた施設の計 20 施設とともに行いました。日本慢性疾患重症化予防学会(JMAP)推奨の「疾患管理テンプレート」を用い、正確な腎症 stage 分類を行い、透析導入ハイリスク例を抽出して、血糖、血圧コントロールのみでなく、GLP-1 受容体アゴニスト、SGLT2 阻害剤を主とした強力な腎保護治療とともに、減塩・脱水予防指導を徹底し、医療機関のみでの生活習慣改善が困難な例に対し、保険者とともに個別指導を行いました。その結果、尿中アルブミン測定率の増加、糖尿病透析予防指導料算定件数の増加、新規透析導入例の減少につながりました。

附属病院における内分泌代謝・糖尿病・栄養領域の診療については、外来患者数は延べ 3000 名/年以上、紹介患者数は延べ 500 名/年以上、入院患者数は内分泌代謝内科主任および第三内科副科長として延べ 1200 名/年以上を担当しました。特に甲状腺領域は、2009 年に甲状腺外来を開設後は、250 名/年以上の新規患者を院内・院外から紹介いただき、甲状腺 US も 1200 件/年以上実施しました。また 2012 年からは、東日本大震災原発事故後の福島県民健康調査甲状腺健診を愛媛県下で唯一当科が担当することとなり、計 100 名以上の甲状腺健診を実施しました。要二次検診例は 1 名(約 1%)で、全国平均と同様の結果でした。2016 年からは、二次健診も当科で実施することとなりました。栄養関連領域では、2004 年に入院患者を対象とした NST (栄養サポートチーム)活動を開始し、2006 年には肥満やメタボリックシンドロームなどの生活習慣病や慢性肝疾患など集中的に栄養管理の必要な症例の外来 NST としての栄養療法外来を開設しました。2016 年には肥満外科手術チームを立ち上げ、2020 年には、日本肥満症治療学会の肥満症外科手術認定施設の認定を中国四国で初めて当院が取得しました。さらに、2024 年には間脳下垂体疾患センターを開設し、センター長として、内分泌代謝内科、脳神経外科、小児科、産婦人科、泌尿器科と協働で愛媛県下の本領域の診療向上に努めました。

講座開講 15 年間で、地域で、大学内で、教育・診療・研究活動は着実に進んできたと思っています。当講座の運営に多大なるご協力をいただいた内子町長はじめ保健福祉課の方々、済生会愛媛県支部の方々、愛媛大学の医学系研究科長、附属病院長はじめ多く講座、診療科の方々に深謝いたします。2025 年 4 月からは三宅先生が講座の責任者になります。今後とも本講座にご支援賜りますよう、お願い申し上げます。



## 寄 稿

### 地域生活習慣病・内分泌学講座 15 周年を記念して

愛媛大学 医学部長/大学院医学系研究科長 羽藤直人

愛媛大学大学院医学系研究科 地域生活習慣病・内分泌学講座(寄附講座)の開講 15 周年に際し、心よりお慶びを申し上げます。また 15 年間本講座の発展を支えて頂いた内子町の関係各位、済生会小田診療所の方々にお礼を申し上げます。

愛媛大学医学部も 2023 年 9 月 29 日に 50 周年という大きな節目を越えることが出来ました。新設医学部の第一号として、開設当初わずか 8 講座で始まった愛媛大学医学部は、現在寄附講座・産学協働講座を含めると医学系研究科に 64 の講座を備える、西日本でも有数の医学部に成長しております。医学の進歩とともに歩んできたこの半世紀は、愛媛大学医学系研究科そして地域生活習慣病・内分泌学講座で、数多くの研究成果と臨床実績が積み重ねられてきた時期でもあります。15 年に渡り、地域生活習慣病・内分泌学講座の発展を支えられてこられた松浦文三教授には、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。小田診療所を中心とした内子町の地域医療支援のみならず、地域健康教室や健診等の活動を通じ、内子町の保健医療の活性化、地域住民の健康を守るための先進的な取り組みにも貢献されました。また、愛媛大学医学部医学科の学生教育、研修医の育成にもご尽力いただき、数多くの優秀な医師や研究者が育成されてきました。今では、内子町の地域医療に欠かせない寄附講座として発展されたものと確信しております。このような活動は、地域社会からの信頼を築くとともに、愛媛大学の名声を高める一助となっています。

15 周年という節目は、新たなスタートラインでもあります。これからも、地域生活習慣病・内分泌学講座を発展させ、内子町に最善の医療を提供し続けるとともに、医療の未来を切り拓いていかれることをお祈り申し上げます。

## 地域生活習慣病・内分泌学講座 15 周年と松浦文三教授のご退任を祝して

愛媛大学 医学部附属病院 病院長 杉山隆

愛媛大学大学院医学系研究科地域生活習慣病・内分泌学講座は、2010年4月に愛媛大学と内子町の連携により、地域医療の支援と発展を目的に設立された寄附講座です。その活動理念は、地域住民の健康増進に寄与し、生活習慣病および内分泌疾患の予防、診療、教育を通じて、地域社会に貢献することです。これらの理念を果たすための具体的アクションとして、①済生会小田診療所での診療を介した内子町の地域医療支援、②内子町の保健医療行政への協力し住民の健康増進を図ること、③大学における教育・研究・診療の維持があげられます。

本講座の初代責任者である松浦文三先生は、15年間にわたり本講座の教授として上記3つのアクションを継続的に積み重ねてこられました。その結果、内子町における高血圧症、糖尿病、慢性腎臓病の減少といった疾患発症予防推進のみならず、医療費の減少につながっていただきました。さらには、医学部教育・研修医指導に関しても大きな貢献を果たしていただきました。すなわち、小田診療所、老健施設、特別養護老人ホームにおいて、医学部1年生の早期体験実習の指導や5年生に対する地域医療実習の指導、さらには卒後2年目の初期研修医の地域医療研修指導に携わっていただきました。これらのご活動は、将来の愛媛県の地域医療に根差す医師育成につながることを期待されます。本講座としての教育へのご尽力のみならず、本学における医学部教育、研究においても多大なご貢献をいただきました。たとえば研究においては、先生のご専門である生活習慣病や内分泌疾患の予防・治療に関する研究を推進されました。消化管ホルモンやその受容体の解析、*in vivo imaging* を用いた研究、非アルコール性脂肪性肝疾患の病態解析、バセドウ病の病態解析などに関する学位研究の指導をなされ、14名もの学位取得に貢献されています。その他、多くの海外との共同研究や国内の多施設共同研究にも携わっておられます。

愛媛大学医学部附属病院においては、多くの外来患者へのご対応、入院患者を対象とした栄養サポートチーム活動の立ち上げと運用、肥満やメタボリックシンドロームなどの生活習慣病や慢性肝疾患など集中的に栄養管理の必要な症例に対する外来栄養療法開設、肥満外科手術チームの立ち上げと肥満症外科手術認定施設の取得等、県下の本領域における診療向上と本院のアイデンティティアップにご貢献いただきました。

私は松浦教授とは診療科は違いますが、内分泌・代謝領域においてお世話になってきました。日本内分泌学会における四国支部会や県内の研究会においてご指導・ご支援をいただき、先生の診療・教育・研究に対する熱い思いと実践力に敬服しています。

このように松浦教授は、地域生活習慣病・内分泌学講座の発展に貢献されたのみならず、医学部における診療・教育・研究にも寄与され、本講座の意義である地域に根ざした医療提供とともに、学術的な研究を通じて地域医療の向上を実践いただき、まさに住民の健康維持・増進に寄与することにより、医療と地域社会の橋渡し役を果たしていただきました。

本講座の開講15年という節目と松浦教授のご退任が奇しくも一致し、本講座の今後の益々の維持・発展を確信しつつ祈念するとともに、松浦教授のご健勝とさらなるご発展をお祈りいたします。

## 地域生活習慣病・内分泌学講座 15 周年に寄せて

内子町 町長 小野植正久

愛媛大学と内子町の連携により開設された寄附講座「地域生活習慣病・内分泌学講座」は今年で 15 年を迎えることとなりました。開設当初より関わっていただきました松浦教授をはじめ、関係の皆様のご尽力により様々な取り組みが実施され、地域医療の維持や健康意識の向上などが図られましたことに、心からお礼を申し上げます。

内子町では今年、旧内子町、旧五十崎町、旧小田町の合併 20 周年を迎えましたが、この間地域医療を取り巻く環境も大きく変化して参りました。合併直後には、内山病院の閉院や済生会小田病院の無床診療所化といった状況も生じ、地域医療の維持が大きな課題となりました。また、近年では新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの生活様式や医療提供体制は一変し、感染拡大による制限や自粛要請は、医療機関や地域住民に多方面での影響を及ぼしました。高齢化が進む中で、介護サービスのニーズが高まるという課題とも相まって、地域医療の在り方を再考する必要性が高まっています。今後は、救急医療体制の維持や地域包括ケアシステムの構築、予防医療の推進、災害時の医療体制の確保など、多くの課題に取り組む必要があります。内子町が抱えるこれらの課題に対して、愛媛大学との連携をさらに強化し、地域住民と共に解決策を見出していくことが求められています。

地域医療は、人々がいつまでも安心して暮らし続けることができる社会を支える重要な要素の一つですが、今後、医師や医療スタッフの不足など大きな課題もある中で、寄附講座による診療支援は地域医療の大きな一助となっています。また、特に地域健康教室の開催は、住民が自らの健康意識の向上や、生活習慣を見直すきっかけとなってきたことと思います。

今後、様々な形で連携を取りながら、内子町民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現にむけ、生活習慣の改善、生活習慣病の発症予防及び重症化予防へ引き続き取り組んでいただくよう期待をしています。寄附講座に関わっていただく関係各位の今後ますますのご活躍をご祈念申し上げ、15 周年の講座年報発刊のご挨拶とします。

## 診療・教育・研究，そして任に堪える

愛媛大学 地域医療支援センター センター長 高田清式

地域生活習慣病・内分泌学講座の開講 15 周年，おめでとうございます。10 周年の節目の発刊の際に，本講座の開講に関しては，地域住民の期待・熱望はもちろんのこと，医学生・研修医に内分泌・生活習慣病をより深く専門的に学んでもらう教育体制を充実させること，さらに地域医療に熱意の持った松浦文三先生の臨床能力をより発揮できる場を提供する，などを総合的に鑑みたくて，講座発足に奔走された当時の内科学第三講座の恩地森一教授の想いを紹介させていただきました(当時，私もこの話を聞き，発足には大賛成いたしました)。

大学の教官になるにあたり，私自身の場合は内科学第一講座へ入局 7 年目に教授室に呼ばれ，「診療・研究・教育の全てができること，さらにその任に堪えること」の小林譲初代教授の訓話が 30 分程あった後に助手に任命していただきましたが，この「任に堪える」の教えは今も心の内に秘めて努めています。医学部教官にとって，この 3 本柱とその責任を堪え果たすことは極めて重要な点です。

松浦文三先生の場合，この 15 年余にわたる講座運営において，診療面では，生活習慣病，内分泌疾患，消化器疾患を中心に済生会小田診療所，附属の老健施設ふじの園，特別養護老人ホーム緑風荘の各診療支援を行い，内子町における高血圧症，糖尿病，慢性腎臓病の減少，医療費の減少などの注目すべき成果・実績を上げております。また，教育面でも，地域健康教室，市民講座，高齢者大学，婦人会講座を開催し，住民の啓発活動を継続されています。さらに将来を担うべき医学生・若手医師に対しては，学生の大学での講義だけでなく，当地域の現場にて 1 年生の早期体験実習，5 年生の地域医療実習，初期研修医の地域医療研修などの多くの幅広い教育・指導が行われてきました。研究面においても，内子町の死因統計を踏まえ，国保レセプトを用いて生活習慣病，特に糖尿病に起因する疾患での死亡・透析導入例を他地域と比較検討を行い，当地域全体の医療の現況を深く掘り下げています。このことは，医学生時代から地域医療に熱心であった松浦文三先生ならではの研究成果と，多大に敬服しております。さらに，大学での消化管ホルモン，非アルコール性脂肪性肝疾患，バセドウ病などの面での学究的な研究指導により，14 名の医学博士が誕生しました。これら診療・教育・研究の全てにわたる活躍は，講座開講以来の教授としての責任に堪え，まさに任を果たされた，目を見張るべき成果・実績だと考えます(「任に堪える」)。

将来を見据えた指導医の養成面では，愛媛大学は 2008 年度から，愛媛県内の臨床研修指導医およびその候補医師を集め 1 泊 2 日の「指導医講習会」を毎年開催していますが，松浦文三先生には受講する指導医候補にアドバイスをを行うタスクフォースとして，第 3 回から参加・協力していただき，実践的で適切な指導を各々の受講生にしていただきました。

これらの内子町および大学での並々ならぬ活躍，本講座の 15 年の道筋には，能力だけでなく松浦文三先生自身の温厚で人を大切にしている性格があつてのことと感じています。本講座はこの 15 年で充実期を迎えつつありますが，松浦文三先生の熱い思いを受け継ぎ，さらに今後大きな発展を遂げていかれることを，地域医療支援センターの私の現立場からも大いに期待しています。

松浦文三先生，ありがとうございます。そしてこれからも活躍されることを祈っております。

## 地域生活習慣病・内分泌学講座 15年目を終えるにあたり

済生会小田診療所 所長 今野敏伸

2010年4月に内子町小田地区の地域医療支援、内子町における保健医療行政への協力、医学部生から卒後研修医に対する一貫した生活習慣病、内分泌学、病態栄養学の専門医の養成を目的として開設された地域生活習慣病・内分泌講座は第Ⅲ期5年目、講座開設以来15年目の活動を終えようとしております。

本講座が開設された2010年と現在2025年とでは小田地区における人口、高齢化率等の環境、医療提供体制などには大きな変化が認められます。2010年には内子町小田地区の人口は2957人、高齢化率は44.1%でしたが、その後人口は徐々に減少、高齢化率は上昇し、2024年9月の時点では人口1825人、高齢化率57.7%となっています。済生会小田診療所は、2010年当時は有床診療所でしたが外来、入院患者数の減少、経営状態の悪化などにより、2015年5月に無床診療所へと転換しております。

本講座は開設以来、小田地区の医療福祉活動支援、各種健診事業、内子町全地区及び職場へ出向いての健康教室の開催、済生会松山病院初期研修医の地域医療研修指導、愛媛大学医学部1年生の地域医療の早期体験実習指導などを実施してきました。さらに内子町保健医療行政への協力として、内子町の死因統計、国保レセプトから糖尿病に起因する疾患での死亡や人工透析導入例が愛媛県の他の地域より多いことを内子町に指摘、提言を行うなど講座開設の目的に沿った精力的な活動が行われてきました。ところが、2020年から2023年にかけては世界中がコロナ禍に見舞われ、人と人との接触を極力控えることが推奨され、医療支援以外の健康教室、保健医療行政への協力といった活動を十分に行なうことができない状況が長らく続きましたが、新型コロナウイルス感染症の流行の収束とともに現在では講座本来の活動を取り戻しつつあります。

さて地域生活習慣病・内分泌講座の開設以来15年の長きにわたり本講座を率いてこられた松浦文三教授は今年度末定年退職を迎えることとなり、地域生活習慣病・内分泌講座もひとつの区切りを迎えたと言えるのではないのでしょうか。講座開設以来、松浦教授以下当院の医療福祉支援を担っていただいた助教(当時)の三宅、重松、布井、有光、山本、仙波、中口の各先生方には大変お世話になりました。本稿をお借りしまして職員一同心よりお礼申し上げます。本稿執筆時の2025年1月の時点において内子町と愛媛大学医学部との間で本講座の次期延長が決定しています。小野植内子町長も二期目を迎えられ、講座運営の体制も安定したものとなりました。次期講座も設立理念、活動に関しては今までの事業を継承していただけたと考えますが、済生会小田診療所、老人保健施設ふじの園、特別養護老人ホーム緑風荘への医療福祉支援、各地区・事業所へ出向いての健康教室、保健衛生教育の実施、内子町への健康保持増進に関する提言等、新たな目標の下に内子町の医療、保健福祉体制の維持向上を図るべく、本講座の益々の充実と発展をお願いしたいと考えております。

## 地域生活習慣病・内分泌学講座 15 周年と松浦文三教授のご退任に寄せて

愛媛大学 地域医療学講座 教授 川本龍一

2010 年 4 月、愛媛大学と内子町の協力により設立された「地域生活習慣病・内分泌学講座」は、内子地区における地域医療の支援や保健医療行政への協力、さらに専門医の育成を目的とした寄附講座としてスタートしました。その責任者として松浦文三先生が就任され、15 年もの間地域医療と医学教育の発展に尽力されました。2025 年 3 月、松浦先生が定年退職を迎えるにあたり、先生の多大な貢献に心より感謝申し上げます。

講座の専任スタッフの 2 名の先生は、済生会小田診療所を拠点に地域医療の支援に取り組まれ、生活習慣病や内分泌疾患の診療を週 2 日担当されました。また、老健施設や特別養護老人ホームへの支援を拡大し、小田地区の医療基盤を築かれました。加えて、内子町の保健医療行政と連携し、「地域健康教室」や市民向け講座を通じて住民の健康意識向上に尽力されました。その結果、生活習慣病の罹患率低下や医療費削減という成果を達成されました。特に、高齢化が進む地域でこうした成果を実現された点は特筆に値するものです。

教育面では、医学部生や初期研修医に対して継続的な指導を行い、地域医療の重要性を実感させる場を提供されました。特に、医学部地域枠 1 年生の早期体験実習では、保健師活動への同行など実践的な教育を行い、将来愛媛県の地域医療を担う人材の育成に貢献されました。

研究面でも、消化管ホルモンや非アルコール性脂肪性肝疾患の解析、糖尿病性腎症の重症化予防など多岐にわたるテーマで成果を上げられました。国内外の研究機関や企業との連携により、特に柑橘類の機能性成分に関する研究では商品化も実現されました。また、研究会や講演会を開催し、糖尿病や内分泌分野の最新知見を広め、多くの方々に学びの機会を提供されました。

さらに、附属病院においても、内分泌代謝・糖尿病・栄養分野の診療や指導に尽力されました。外来や入院患者への治療だけでなく、甲状腺外来や福島県民健康調査など重要な診療活動を推進されました。また、日本肥満症治療学会認定施設の取得や間脳下垂体疾患センターの設立を通じ、新たな診療体制の構築にも尽力されました。

松浦先生の 15 年間にわたるご功績に改めて深く感謝申し上げます。今後も先生のご活躍が続き、地域医療と医学教育がさらに発展することを心よりお祈り申し上げます。

(川本先生は、2025 年 3 月愛媛大学地域医療学講座教授を定年退職、同年 4 月から愛媛大学地域医療支援センター長に就任)

## 地域生活習慣病・内分泌学講座 15 周年を祝して

愛媛大学 医学部附属病院 栄養部長 利光久美子

「地域生活習慣病・内分泌学講座」が開講 15 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。この節目を迎えられたのは、愛媛大学と内子町の連携がもたらした成果であり、これまでのご尽力と地域医療への貢献に深く敬意を表します。

講座は開設以来、生活習慣病や内分泌疾患に関する診療、教育、研究を通じて地域住民の健康向上に大きく寄与されてきました。内子町の地域医療支援、保健医療行政への協力、医学部生から卒後研修医に至るまでの専門医育成といった取り組みを通じ、多くの患者やその家族にとって心強い支えとなっていることは、地域医療のモデルケースとして高く評価されるべきものと思います。生活習慣病は、高血圧症、糖尿病、脂質異常症など、現代社会における重要な課題であり、心筋梗塞や脳卒中など生命に関わる疾患の主要因でもあります。講座では、早期から地域医療の柱としての役割を果たし、栄養療法や管理栄養士との連携により、科学的根拠に基づく個別化された指導を推進いただき、これにより患者の生活の質(QOL)を向上させる取り組みがなされたことで、地域住民の健康増進や生活習慣病予防にも大きく貢献されているものと思います。また病態栄養の分野においては、食事療法や栄養管理が生活習慣病や内分泌疾患の治療に欠かせない要素であり、講座の実践的な活動は疾患の進行抑制や患者の QOL 向上に多大な成果をもたらしているものと思います。管理栄養士との連携にもお力添えを賜り、個別対応による患者一人ひとりの生活スタイルに合わせた栄養食事指導が可能となりました。このような取り組みは、地域全体の健康水準を向上させるとともに、予防医療のモデルとして他地域への波及も期待されるものと感じています。

15 周年という大きな節目を迎え、これまでの成果からさらなる飛躍に繋がりますことを、そしてこれまで培われた経験と知見をもとに、地域医療や健康づくりの新たな取り組みに繋がっていくことを心より願っております。

最後になりますが、「地域生活習慣病・内分泌学講座」の更なる発展と、関係者の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

## 地域生活習慣病・内分泌学講座助教5年間を終えての総括

愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学 助教 中口博允

2020年4月1日付で愛媛大学地域生活習慣病・内分泌学講座 助教を命ぜられ、5年間が経ちました。

私は、済生会松山病院で初期および後期研修を受け、かねてより地域医療、総合診療、ホームドクターに興味があったため、済生丸診療、済生会小田診療所の外来・当直、学校健診などにも従事させていただきました。2019年から愛媛大学第三内科で内分泌・代謝の専門診療に従事するとともに、医学部生の臨床実習指導、初期研修医・専攻医の研修指導、消化管ホルモンの基礎的研究に従事しております。

講座開設15周年であり、助教を5年務めた総括と、6年目に向けての抱負を述べさせていただきます。助教の業務として、①済生会小田診療所における地域医療支援、②内子町保健医療行政への協力、③医学部生・研修医の教育・指導を承っております。

① 済生会小田診療所における地域医療支援として、外来や特別養護老人ホームでの診療、健康診断業務などを行っております。COVID-19の影響も依然として残ってはいますが、2024年度はそれに加えてインフルエンザが猛威を振るった印象でした。ワクチン接種や発熱外来が混雑することもありましたが、大きなトラブルなく業務を行えました。その他の疾患においては、病院規模による検査の制限などもあり、他院の先生方には多大なご迷惑をおかけしていることもあると存じます。今後ともよろしく願い申し上げます。

② 内子町保健医療行政への協力として、地域健康教室の開催などがありますが、コロナ禍以来この数年開催できておりませんでした。今年度は内子町小田地区、五十崎地区、内子地区で、寄附講座15年間の総括の報告会を行いました。今後ともよろしく願い申し上げます。

③ 医学部生・研修医の教育・指導ですが、今年度も現地での実習指導を行いました。進路相談なども活発に受け、後進の医師育成の重要性を改めて実感した次第です。今後も継続して行きたいと思えます。

5年間を通して感じたことは、全国的に高齢者が多く人口も減ってきていると言われておりますが、内子町は患者数や特別養護老人ホームの対象の方も非常に減ってきていることです。患者家族のサポートが受けられずに治療が難しく、通院も今後難しくなることが懸念されます。また病識が乏しく、薬を飲むことで満足し治療に積極的ではない患者も見受けられます。少子高齢化は日本全体の問題で、効果的な改善策が打ち出せてないのが現状です。その中で今できることは、②の地域健康教室の開催かと思えます。それも会場を貸し切ったの大掛かりな規模で行う必要はないと思えます(大掛かりでも良いですが)。医学的な診療には興味がわかないが、健康食品や通販・友達から聞いた話であれば興味を持つ方もいるようですので、外来では話できない内容のことも、健康相談として気軽に地域の方とおしゃべりする感じでいいのではないかと思います。6年目に向けて、診療・地域保健業務の発展に尽力させていただきたく存じます。

以上、微力ではございますが内子町小田地区の医療の一助たるべく誠心誠意努力いたす所存でございますので、ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしく願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶申し上げます。

## 地域生活習慣病・内分泌学講座 15 周年に寄せて

内子町保健福祉課 課長 上野昌宏

愛媛大学と内子町との連携による「地域生活習慣病・内分泌学講座」が、今年で15年を迎えることとなりました。この間、地域の医療と住民の健康を守るためご尽力いただきました松浦教授をはじめ、関係者の皆様のご努力に深く感謝を申し上げます。

寄附講座では、開設当初より地域や職場へ出向いての「地域健康教室」を開催していただき、地域住民の健康維持・増進に向けた重要な役割を果たしていただきました。生活習慣病は、現代社会において多くの人々が直面する課題であり、その予防や治療には専門的な知識と技術が求められます。この教室では、研究成果を基にした啓発活動が行われ、地域住民や保健行政に対し有益な情報が提供され、生活習慣や糖尿病が健康に与える影響についての理解が深まりました。これにより、地域住民が自らの健康管理に積極的に取り組む姿勢が育まれ、健康意識の向上につながっています。

また寄附講座では、済生会小田診療所にサブセンターを設置し診療支援等を行っていただいています。済生会小田診療所のある小田地区は、内子町でも特に人口減少が進み、高齢化率も60%に迫るなど、超高齢社会となっています。住民が住み慣れた地域で健康で住み続けるため、健康寿命を延ばすことはとても重要なことです。今後の展望として、デジタル技術の活用も挙げられます。特に、データ分析やAI技術を駆使した健康管理などは、個々の健康状態を把握し、適切なアプローチを行う上で非常に有効です。今後、地域住民一人ひとりが自分自身の健康をより良く理解し、生活習慣の改善に繋げることが期待されます。

改めて、関係者の皆さまの15年間のご尽力に感謝申し上げますとともに、さらなる発展と飛躍を遂げることを心より願い、地域生活習慣病・内分泌学講座がますます充実したものとなることと、今後も地域社会に貢献し続けることをご祈念申し上げます。

## 高血圧症予防の取り組み

内子町保健福祉課 内子町保健センター 保健師 吉岡佳奈, 中川真希

愛媛県は全国的にみて血圧が高い傾向にあり、令和4年に全国に先駆けて「愛媛県高血圧重症化予防プログラム」が策定されました。各市町においても高血圧を優先課題と捉えて取り組みを進めているところです。今回は当町で実施している高血圧予防の取り組みについてご報告します。

### 1. 高血圧に関する現状(特定健診結果)

#### (1) 治療と未治療の状況

	血圧測定者	正常		正常高値		高値血圧		I度		II度		III度			
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
		A	B	B/A	C	C/A	D	D/A	E	E/A	F	F/A	G	G/A	
治療中	R1	475	34.9%	86	18.1	73	15.4	154	32.4	130	27.4	29	6.1	3	0.6
	R3	378	33.5%	61	16.1	74	19.6	118	31.2	106	28.0	16	4.2	3	0.8
	R5	380	35.1%	81	21.3	68	17.9	101	26.6	109	28.7	17	4.5	4	1.1
未治療	R1	887	65.1%	333	37.5	142	16.0	206	23.2	157	17.7	40	4.5	9	1.0
	R3	751	66.5%	279	37.2	113	15.0	168	22.4	152	20.2	30	4.0	9	1.2
	R5	703	64.9%	269	38.3	117	16.6	159	22.6	118	16.8	34	4.8	6	0.9

#### (2) 脳心血管リスク層別化(R5年)

		高値血圧		I度高血圧		II度高血圧		III度高血圧	
		130~139/ 80~89		140~159/ 90~99		160~179/ 100~109		180以上/ 100以上	
	548	260		227		51		10	
		47.4%		41.4%		9.3%		1.8%	
		未治療	治療中	未治療	治療中	未治療	治療中	未治療	治療中
		159	101	118	109	34	17	6	4
		61.2%	38.8%	52.0%	48.0%	66.7%	33.3%	60.0%	40.0%
リスク第1層	予後影響因子がない	17	7	3	4	3	0	0	0
		3.1%	4.4%	3.0%	3.4%	2.8%	0%	0%	0%
リスク第2層	高齢、男性、脂質異常症、喫煙のいずれか該当	292	93	41	75	54	15	7	4
		53.3%	58.5%	40.6%	63.6%	49.5%	44.1%	41.2%	66.7%
リスク第3層	脳心血管病既往、非弁膜症性心房細動、糖尿病、蛋白尿のいずれか、またはリスク2層の危険因子が3つ以上	239	59	57	39	52	19	10	2
		43.6%	37.1%	56.4%	33.1%	47.7%	55.9%	58.8%	33.3%

高リスク
中等リスク
低リスク

#### (3) データからみる内子町の課題

- ・II度高血圧以上の未治療者割合が横ばいであり、減少していない
- ・脳心血管病高リスクかつ未治療者が多いため、優先順位を付けてアプローチする必要がある。

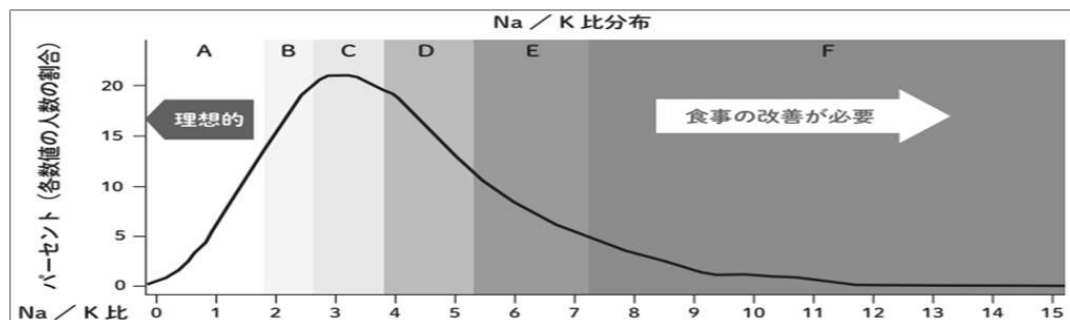
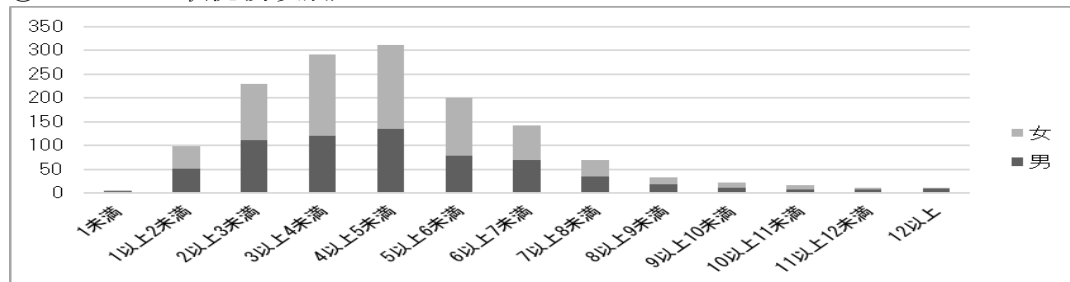
## 2. 尿 Na/K 比測定

### (1) 内容

集団健診において同意の得られた受診者に対し、尿検査を用いた Na/K 比測定を実施した。尿 Na/K 比とは、尿中に排泄されるナトリウム濃度(mmol/L)とカリウム濃度(mmol/L)の比である。日本高血圧学会でもコンセンサススタートメントとして発表されている目標値である至適目標 2 未満、実現可能目標 4 未満を使用して、受診者全員に対し減塩指導を実施した。

### (2) データ分析(R6 年集団健診受診者)

#### ① Na/K 比の状況(男女別)

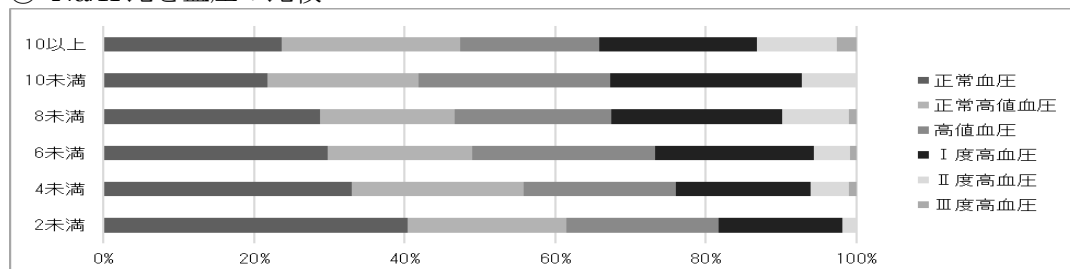


(参考：厚生労働省作成リーフレットから抜粋)

#### 【気づき】

- ・ Na/K 比の平均は、厚生労働省作成のグラフと比較すると若干高い傾向(内子町は分布の山が 4~5、参考資料は 2~4)。
- ・ 女性よりも男性のほうが高い傾向。

#### ② Na/K 比と血圧の比較



#### 【気づき】

- ・ Na/K 比が高いほど、高血圧のリスクが高い傾向。

・正常血圧値であっても Na/K 比が高値である方もいるため、将来的な高血圧リスクも考慮した保健指導が必要。

### 3. 医療機関と連携した保健・栄養指導の実際

当町では、特定健診にて要医療・要精密検査判定となった方に対し、健診結果に同封して医療機関への紹介状を送付している。その返信として、主治医から指導の指示があった方に対し個別指導を実施しているが、今年度から指導方法の見直しを行った。

原則、指導対象者には食事記録表を提出してもらい、町の管理栄養士が栄養価計算を行うこととした。また保健師・管理栄養士がペアになって指導に当たることとし、より個別性の高い専門的な指導に繋がったと感じる。

#### 令和 6 年度高血圧指導の実績(R6 年 12 月末時点)

	Ⅱ度高血圧	Ⅲ度高血圧
紹介状の送付人数	31	3
受診者数	9	2
主治医による指導の指示があった人数	4	2
保健・栄養指導の実施数	4	2

### 4. 最後に

当町は県内他市町と比較して、高血圧割合は低いですが、Ⅱ度高血圧以上の未治療者割合が県内 1 位(R5)となっています。そのため、高リスク者へのハイリスクアプローチを強化していく必要性を感じています。

また、今年度より導入した尿 Na/K 比測定については、数値が高かった人からは食生活の改善に取り組んだという声が聞かれ、行動変容の動機付けとして効果があるように感じました。次年度以降も継続予定のため、データを蓄積し内子町の傾向を分析することで保健事業に活用していきたいと考えています。

### 5. 地域生活習慣病・内分泌学講座 15 周年に寄せて

愛媛大学と内子町との連携が始まり、多くの場面で保健センター事業の支援を頂きありがとうございました。松浦教授には、糖尿病や甲状腺疾患の最新情報・治療について、保健師や管理栄養士への研修をしていただき、スキルアップにお力添えをいただきました。また、個々のケースで保健師や管理栄養士が疑問に感じた事にも丁寧に教えていただき感謝申し上げます。

これからも、地域生活習慣病・内分泌学講座がますます飛躍され、地域社会・地域医療向上に貢献いただくことを期待し、結びといたします。

## 講座の 2024 年度活動報告

### (1) 大学において

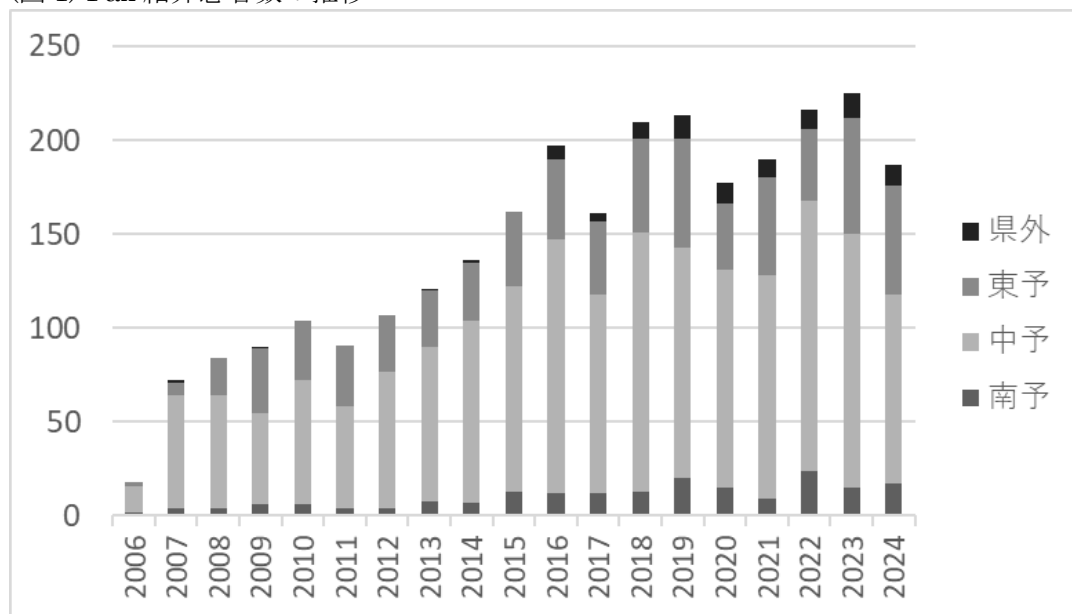
#### ① 内分泌・代謝領域の診療

2024 年の第三内科の Fax・Web 紹介患者数は 946 件で、その内の内分泌・代謝領域の患者は 187 件 (20%)であった。図 1 は、Fax・Web 紹介による内分泌・代謝内科の外来新患者数の推移を示している。2024 年は第三内科全体でもやや減少したが、内分泌・代謝領域でもやや減少した。附属病院の Fax・Web 予約システムが変更になったことが影響したと考えられる。Fax・Web 紹介以外の新患者数は Fax・Web 紹介患者数の 2 倍以上存在するため、内分泌・代謝領域の新患者数としては 500 件/年程度を継続している。紹介元の地域としては、中予地区が 54%と最も多くを占めており、紹介元の医療機関別では、第三内科関連病院以外が 57%と同程度 (図 2)、また基幹病院からの紹介が 11%、地域病院からが 33%、診療所・健診からが 50%と、例年よりも診療所・検診からの紹介が増加した (図 3)。紹介患者の疾患別割合では、甲状腺が 47%と最も多くを占めるが、2024 年は不妊治療時の肥満治療依頼や肥満代謝改善手術依頼、脂肪肝の治験紹介が 27%と増加した (図 4)。

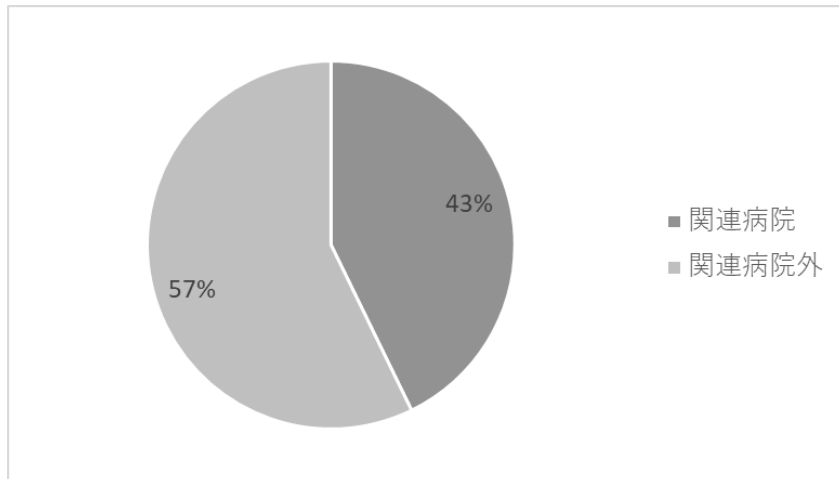
内分泌代謝疾患の入院患者数は、第三内科の全入院患者数の約 14%を占め、疾患別では視床下部・下垂体疾患、脂肪肝、肥満、糖尿病、副腎疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、と続いている。2024 年は間脳・下垂体疾患センター開設の効果か、特に下垂体疾患の入院患者数が増加した。

甲状腺・頸部エコー実施件数は徐々に増加してきたが、この 4 年間は年間 1200 件程度で推移している (図 5)。

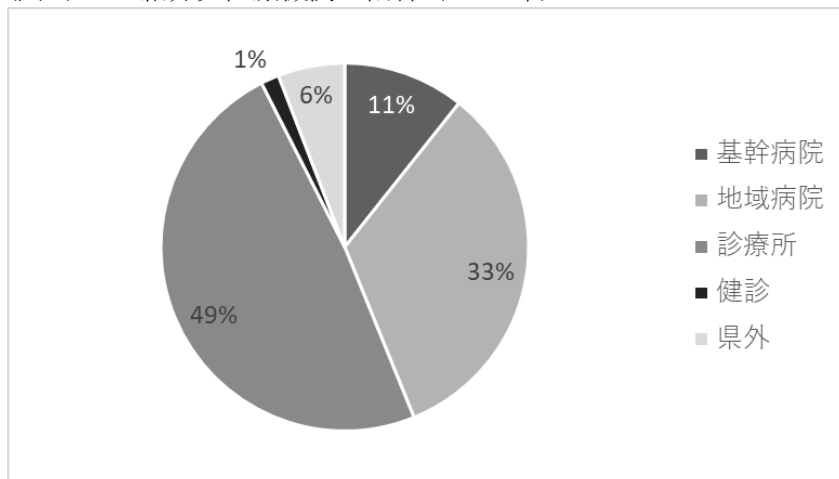
(図 1) Fax 紹介患者数の推移



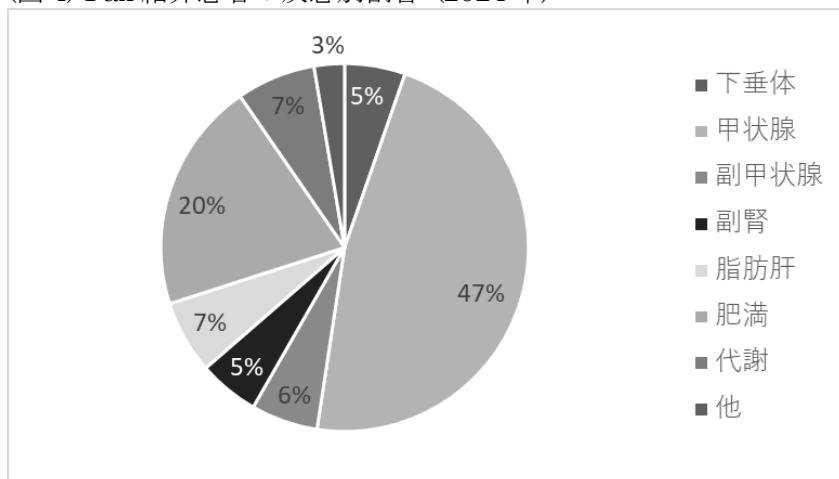
(図 2) Fax 紹介元医療機関の割合 (2024 年)



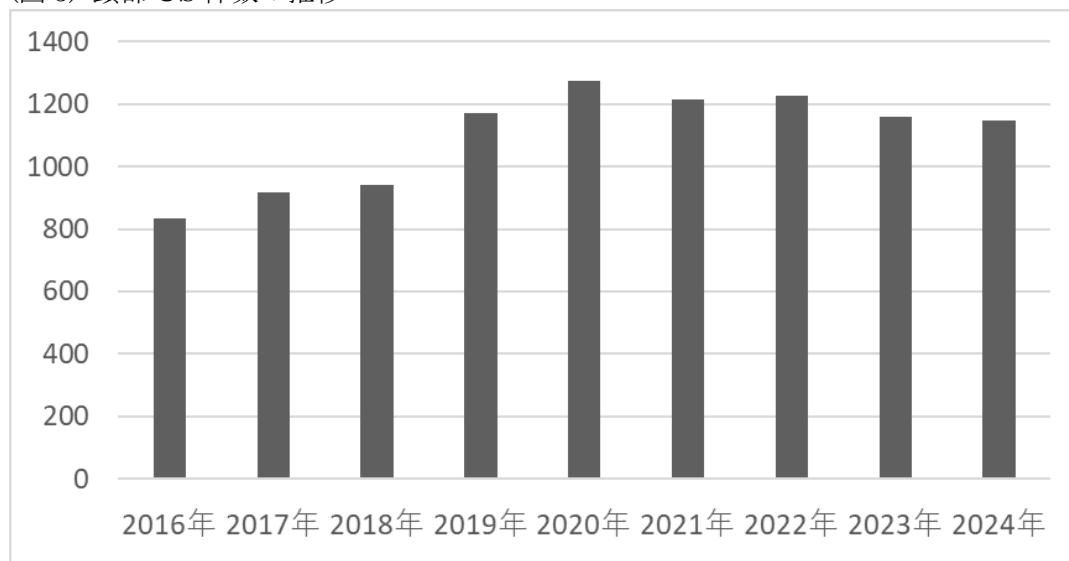
(図 3) Fax 紹介元医療機関の割合 (2024 年)



(図 4) Fax 紹介患者の疾患別割合 (2024 年)



(図 5) 頸部 US 件数の推移



## ② 福島県民健康調査甲状腺健診

2012年度から、福島原発事故による愛媛県への避難民(20歳未満)の甲状腺一次健診を当講座が担当するようになり、3年間で初期の32名の健診を実施した。2015年度からは follow up の健診となり、対象者が20歳になるまで、2年に1回、それ以後は5年に1回、健診を実施する予定である。福島県における帰還困難地域の解消、および当科関連施設が健診実施施設に加わったため、2024年度は当講座で1名、当科関連施設の南松山病院で1名の健診を実施した。2016年度からは二次健診も当講座が担当しているが、二次健診の該当者は現時点ではゼロである。2024年8月25日に福島県民健康調査 連絡調整会が開催され、意見交換を行った。

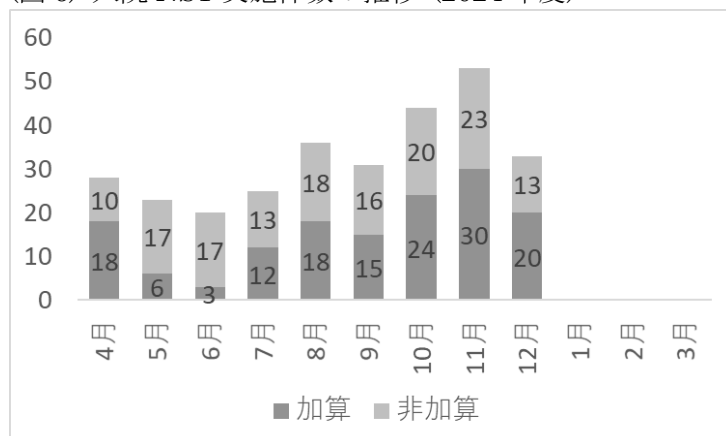
## ③ 栄養療法外来と入院栄養療法チーム (NST)

附属病院栄養療法外来は、17年が経ち、長期フォロー例も150名を超えるようになった。内科的治療に抵抗性の肥満患者に対し、2017年から減量・代謝改善手術を開始し、2025年3月末で計51例実施した。2024年度の外科治療例は2例であった。女性、糖尿病合併例、術前体重の軽い例、術後6ヶ月の体重減少率の少ない例、術後6ヶ月から1年の体重増加例、術後筋量減少例で有意にリバウンド例が多かった。

附属病院入院栄養療法チーム(NST)では、35件/月程度の栄養管理の実施件数となっている(図6)。歯科医師、歯科衛生士にもチームに参加いただき、総合的に栄養管理を行っている。依頼の多い疾患領域は、悪性腫瘍、肝胆膵疾患、循環器疾患であった。

NST実習者は、院内の看護師3名、および他施設の看護師3名、薬剤師1名、管理栄養士2名の計9名の受入れを行い、指導した。

(図 6) 入院 NST 実施件数の推移 (2024 年度)



④ 学部・大学院教育

地域枠学生早期体験実習(1年生対象, サブセンターにて)

2024年9月17-20日: 2名

内科学系統講義(3年生対象)

2024年7月19日: 内分泌学総論: 症候学

2024年10月7日: 内分泌学総論: 検査

2024年10月16日: 下垂体疾患1: 前葉

2024年10月16日: 下垂体疾患2: 後葉

2024年10月23日: カルシウム代謝異常と副甲状腺疾患

2024年10月23日: 骨粗鬆症

2024年11月6日: 糖尿病総論(非常勤講師: 金藤教授)

2024年11月6日: 甲状腺疾患3: 甲状腺腫瘍

2024年11月18日: 甲状腺疾患1: バセドウ病

2024年12月2日: 甲状腺疾患2: その他の甲状腺疾患

2024年12月11日: 副腎疾患1: Cushing 症候群と Addison 病

2024年12月11日: 副腎疾患2: その他の副腎疾患

2024年12月16日: 肥満と肥満症

2024年12月23日: 病態栄養と栄養治療

2024年12月23日: 糖尿病の合併症: 急性合併症と細小血管障害

2025年1月8日: 二次性糖尿病

2025年1月8日: 糖尿病の合併症: がんと消化器疾患

2025年1月14日: 脂質異常症

2025年1月15日: 尿酸代謝異常, ビタミン異常症

2025年1月15日: 消化器神経内分泌腫瘍と消化管ホルモン

医科学研究(1年生対象)

2024年5月から2025年1月: 1名(消化器・内分泌・代謝内科学配属者から当講座へ)

OSCE 実習(4年生対象)

2024年6月から2024年9月

臨床実習(5年生対象, 4年生対象)

2024年4月から2024年11月, 2025年1月から2025年3月

クリニカルクラークシップ(6年生対象, 5年生対象)

2024年5月から2024年9月，2024年12月から2025年3月  
大学院医学系研究科看護学専攻講義  
2024年10月：内分泌・代謝・糖尿病領域の薬物療法

⑤ 初期研修指導および専門医研修指導

2024年4月から2025年3月まで，1年目研修医3名，2年目研修医11名の研修指導を行った。また日本内科学会，日本内分泌学会，日本甲状腺学会，日本糖尿病学会，日本病態栄養学会の各専門医研修指導を行った。内分泌代謝・糖尿病領域専門医1名，甲状腺専門医1名，糖尿病専門医1名が新たに誕生した。

⑥ 医学系研究科研究

松浦は，「消化管ホルモン受容体活性化機構と相互関連の解析」の基礎研究を継続した。また，ヒトモチリン受容体トランスジェニックマウスを用いて，米国 Beagle Bioscience 社と Harvard 大学 Boston Children's Hospital の Hodgson 先生との共同研究として，新規ヒトモチリン受容体作動性薬の開発を継続した。中口は，機能促進系と機能抑制系を用いて，モチリンとエリスロマイシンの脱感作の機序に，GRK，b-arrestin，Golgi 装置が関与することの解析を行った。また，sleeve 状胃切除術前後の体組成の変化を解析し，雑誌 Clinics & Practise に accept され，学位審査をうけ，2025年3月に医学博士の学位を授与された。

松浦は，学位審査の副査を2件担当した。

⑦ 第20回臨床研修指導医講習会(2024年9月28-29日)

2024年度の臨床研修指導医講習会は，完全対面型で実施された。松浦は，タスクフォースとして講習会を企画運営した(図7)。

(図7) 臨床研修指導医講習会(メディアでみる寄附講座の項を参照)



⑧ 地域医療関連会議・セミナー

2023年度の愛媛県国保診療施設連絡会は2024年2月28日に対面型で，2024年度は2025年2月27日に対面型で開催された。第13回の愛媛大学地域医療再生セミナーは，2024年10月31日にWebで開催され，「地域生活習慣病・内分泌学講座15年間の総括」として報告した。

⑨ 講演

- 2024年2月8日：院内NST研修会「がんの病態栄養と栄養治療」
- 2024年3月7日：DiaMond Seminar in 愛媛「内分泌(甲状腺)診療のポイント」
- 2024年5月2日：ラジオ糖尿病セミナー「糖尿病の合併症」
- 2024年6月30日：第90回愛媛大学ヘルスアカデミー/日本内分泌学会四国支部市民公開講座「肥満とやせと健康と」
- 2024年10月10日：DiaMond Seminar in 四国「甲状腺診療のポイント」
- 2024年12月6日：院内NST研修会「がんと肝疾患の病態栄養と栄養治療」

⑩ 学会・医師会活動

日本内科学会

- 2024年6月15日：日本内科学会 四国支部運営協議会
- 2024年6月16日：日本内科学会 四国支部評議員会
- 2024年12月14日：日本内科学会 四国支部運営協議会
- 2024年12月15日：日本内科学会 四国支部評議員会

日本消化器病学会

- 2024年5月8日：日本消化器病学会 関連研究会「肥満と消化器疾患研究会」世話人会
- 2024年5月9日：日本消化器病学会 本部評議員会
- 2024年6月8日：日本消化器病学会 四国支部幹事会
- 2024年6月9日：日本消化器病学会 四国支部評議員会
- 2024年11月9日：日本消化器病学会 本部評議員会(Web)

日本消化器内視鏡学会

- 2024年6月9日：日本消化器内視鏡学会 四国支部評議員会

日本消化管学会

- 2024年2月9日：日本消化管学会 代議員会

日本肝臓学会

- 2024年10月31日：日本肝臓学会 西部会評議員会

日本内分泌学会

- 2024年2月28日：日本内分泌学会 災害対策委員会
- 2024年4月26日：日本内分泌学会 理事会
- 2024年6月5日：日本内分泌学会 理事会，評議員会
- 2024年9月7日：日本内分泌学会 四国支部幹事会，評議員会
- 2024年11月28日：日本内分泌学会 理事会

日本甲状腺学会

- 2024年10月3日：日本甲状腺学会 評議員会
- 2024年11月28日：日本甲状腺学会 評議員会(Web)

日本糖尿病学会

- 2024年5月16日：日本糖尿病学会 評議員会
- 2024年12月6日：日本糖尿病学会中国四国支部 評議員会

日本病態栄養学会

- 2024年1月26日：日本病態栄養学会 評議員会
- 2024年2月25日：日本病態栄養学会 専門医制度委員会
- 2024年5月26日：日本病態栄養学会 代議員会/社員総会
- 2024年9月1日：日本病態栄養学会 専門医制度委員会
- 2024年11月4日：日本病態栄養学会 専門医制度委員会

日本肥満症治療学会

2024年11月19日：日本肥満症治療学会 評議員会

日本肥満学会

2024年11月18日：日本肥満学会 評議員会

愛媛県医師会

2024年2月17日：愛媛県糖尿病対策推進会議 実施委員会

2024年2月29日：愛媛県産業保健総合支援センター 運営協議会

2024年3月27日：愛媛県糖尿病対策推進会議

2024年6月1日：愛媛県内科会 幹事会

2024年9月8日：愛媛県糖尿病性腎症重症化予防プログラム 中間報告会

2024年11月30日：愛媛県内科会 幹事会

#### ⑪ 学内活動

保険委員会

2024年3月11日および e-learning

#### ⑫ 愛媛大学ヘルスアカデミー/日本内分泌学会四国支部市民公開講座

第90回愛媛大学ヘルスアカデミー/日本内分泌学会四国支部市民講座は、「肥満とやせと健康と」のテーマで、2024年6月30日(日)13時から、いよてつ高島屋9階「ローズホール」で、松浦文三教授の世話人のもとで開催された。100名以上の参加を得て、5題の講演とともに、多数のQ & Aで、盛会裏に終了した。市民の皆様の「肥満とやせ」に対する関心の高さが感じられた(メディアでみる寄附講座の項を参照)。

#### ⑬ 愛媛大学医学部同窓会(メディアでみる寄附講座の項を参照)

松浦教授が愛媛大学を退任するにあたり、同窓会誌に「異分野の人との交流や留学の大切さ」をメッセージとして記した。

#### (2) 内子町において

##### ① 済生会小田診療所 診療支援

済生会小田診療所において、火曜日は松浦、金曜日は中口が固定で内科診療、特に生活習慣病、内分泌疾患、消化器疾患を担当した。

	月	火	水	木	金	土
内科	今野	松浦 (講座)	今野	今野	中口 (講座)	今野
その他	外科			整形外科	精神科	

##### ② 内子町保健医療行政への協力

内子町の死因統計、国保レセプトから、生活習慣病、特に糖尿病に起因する疾患での死亡や透析導入例が、愛媛県の他の地域よりも多いことが判明している。第1期、第2期の10年間に自治区単位で「健康教室」を開催し、2000名以上、内子町の1/2世帯以上の参加を得、生活習慣病の減少に取り組んできた。第3期は事業所単位で「健康教室」の開催を予定していたが、COVID-19拡大防止のため、2021年度は1回のみ開催、2022年度、2023年度は開催できなかった。従来開催してきた「健康まつり」は2024年度も中止された。

2024年11月19日、2025年1月28日、2月4日に、寄附講座15年間の統括の報告会と内子町糖尿病予防講座を、小田地区、五十崎地区、内子地区で行った(図8)。

(図 8) 寄附講座 15 年間の総括の報告会



③ 初期研修医指導

2024 年度の愛媛県済生会研修医セミナーは、2 月と 7 月に対面型で開催された。済生会松山病院初期研修医 2 年目の大政先生、大谷先生、渡邊先生の済生会小田診療所、老健施設ふじの園、特別養護老人ホーム緑風荘での地域医療の研修の指導を行った。

④ 医学部 1 年生地域枠学生早期体験実習の受け入れ

2024 年 9 月 17-20 日に医学部 1 年生の早期体験実習が実施された。関谷さん、安永さんの 2 名が配属され、4 日間のうち 1 日は内子町の保健行政にも触れていただくため、保健師活動に同行してもらい、保健師との意見交換を行った。また保健福祉課長との交流会も行った (図 9)。

(図 9) 内子町保健福祉課長との交流会



## 研究業績(2024 年)

### 論文(原著)

- Hiraoka A, Tada F, Ohama H, Fukumoto M, Matsuoka K, Matsuda T, Nakatani K, Yanagihara E, Saneto H, Izumoto H, Murakami T, Onishi K, Kitahata S, Kanemitsu-Okada K, Kawamura T, Kuroda T, Miyata H, Tsubouchi E, Hirooka M, Abe M, Matsuura B, Ninomiya T, Hiasa Y: Simple scoring system for esophagogastric varices prediction in hepatocellular carcinoma patients without liver stiffness evaluation. *Oncology* 102: 291-298, 2024
- Saito M, Miyake Y, Tanaka K, Nagata C, Senba H, Hasebe Y, Miyata T, Higaki T, Kimura E, Matsuura B, Yamaguchi O, Kawamoto R: Smoking and secondhand smoke exposure and carotid intima-media thickness: Baseline data from the Aikai Cohort Study in Japan. *Tob Induc Dis* 22, 2024
- Kumon H, Miyake Y, Yoshino Y, Iga JI, Tanaka K, Senba H, Kimura E, Higaki T, Matsuura B, Kawamoto R, Ueno SI: Functional AGXT2 SNP rs180749 variant and depressive symptoms: Baseline data from the Aikai Cohort Study in Japan. *J Neural Transm (Vienna)* 131: 267-274, 2024
- Miyake T, Furukawa S, Matsuura B, Yoshida O, Miyazaki M, Shiomi A, Kanamoto A, Nakaguchi H, Nakamura Y, Imai Y, Koizumi M, Watanabe T, Yamamoto Y, Koizumi Y, Tokumoto Y, Hirooka M, Kumagi T, Takeshita E, Ikeda Y, Abe M, Hiasa Y: Glycemic control is associated with histological findings of nonalcoholic fatty liver disease. *Diabetes Metab J* 48: 440-448, 2024
- Tada F, Hiraoka A, Nakatani K, Matsuoka K, Fukumoto M, Matsuda T, Yanagihara E, Saneto H, Murakami T, Onishi K, Izumoto H, Kitahata S, Kanemitsu-Okada K, Kawamura T, Kuroda T, Hanaoka J, Watanabe J, Ohtani H, Yoshida O, Hirooka M, Miyata H, Tsubouchi E, Abe M, Matsuura B, Ninomiya T, Hiasa Y: Clinical features of patients with hepatocellular carcinoma treated with radiofrequency ablation therapy: developing a simple score to determine the need for immune-adjuvant therapy. *Clin J Gastroenterol* 17: 401-411, 2024
- Fukunishi Y, Hiraoka A, Tada F, Fukumoto M, Matsuda T, Matsuoka K, Nakatani K, Yanagihara E, Saneto H, Izumoto H, Murakami T, Onishi K, Kitahata S, Kanemitsu-Okada K, Kawamura T, Kuroda T, Miyata H, Tsubouchi E, Hanaoka J, Watanabe J, Ohtani H, Yoshida O, Hirooka M, Abe M, Matsuura B, Ninomiya T, Hiasa Y: Changes in characteristics of gastroenterology center inpatients in Japan because of rapidly aging society. *J Gastroenterol Hepatol* 39: 1528-1534, 2024
- Shiomi A, Miyake T, Furukawa S, Matsuura B, Yoshida O, Watanabe T, Kanamoto A, Miyazaki M, Nakaguchi H, Tokumoto Y, Hirooka M, Abe M, Hiasa Y: Combined effect of histological findings and diabetes mellitus on liver-related events in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. *Hepatol Res* 54: 1016-1026, 2024
- Miyake T, Furukawa S, Matsuura B, Yoshida O, Kanamoto A, Miyazaki M, Shiomi A, Nakaguchi H, Okazaki Y, Nakamura Y, Imai Y, Koizumi M, Watanabe T, Yamamoto Y, Koizumi Y, Tokumoto Y, Hirooka M, Kumagi T, Abe M, Hiasa Y: Association between serum remnant cholesterol level and metabolic dysfunction-associated steatotic liver histology. *J Clin Endocrinol Metab* dgae597, 2024

- Tanaka K, Utsunomiya H, Kato H, Ogawa S, Suzuki H, Fujiwara Y, Nobuhara T, Senba H, Kimura E, Matsuura B, Kawamoto R, Miyake Y: Association between tongue pressure and prevalence of mild cognitive impairment in Japan. *Int J Geriatr Psychiatry* 39: e6144, 2024
- Nakaguchi H, Matsuura B, Miyake T, Senba H, Furukawa S, Yoshida M, Koga S, Watanabe Y, Oshikiri T, Hiasa Y: Body composition changes and factors influencing the total weight loss rate after laparoscopic sleeve gastrectomy. *Clin Pract* 14: 2608-2622, 2024

### 著書

- 松浦文三, 利光久美子: がん治療法における副作用とその対応. 日本病態栄養学会編: がん病態栄養専門管理栄養士のためのがん栄養療法ガイドブック 2024 (改訂第3版). 南江堂, 東京, p77-82, 2024

### 国際学会報告

#### The 33<sup>rd</sup> Annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver 2024 (2024年3月27-31日, 京都)

- Usefulness of laparoscopic sleeve gastrectomy for NAFLD (MASLD)  
Matsuura B, Nakaguchi H, Miyazaki M, Shiomi A, Kanamoto A, Miyake T, Furukawa S, Hiasa Y

#### European Conference of Endocrinology 2024 (2024年5月11-14日, Stockholm, Sweden)

- Characteristics of obese patients with a body mass index (BMI) of > 50 who opted for metabolic/bariatric surgery  
Matsuura B, Nakaguchi H, Senba H, Kanamoto A, Miyazaki M, Shiomi A, Miyake T, Furukawa S, Hiasa Y

#### ADA Scientific Sessions 2024 (2024年6月21-24日, Orlando, USA)

- The effect of remnant cholesterol on pathophysiology of metabolic dysfunction-associated steatotic liver  
Miyake T, Furukawa S, Matsuura B, Yoshida O, Kanamoto A, Miyazaki M, Shiomi A, Nakaguchi H, Hirooka M, Abe M, Hiasa Y
- The effect of remnant cholesterol on the onset of diabetes mellitus  
Kanamoto A, Miyake T, Furukawa S, Matsuura B, Yoshida O, Miyazaki M, Shiomi A, Nakaguchi H, Hirooka M, Abe M, Hiasa Y

#### United European Gastroenterology Week 2024 (2024年10月13-15日, Vienna, Austria)

- Usefulness of laparoscopic sleeve gastrectomy for NAFLD (MASLD)  
Matsuura B, Nakaguchi H, Miyazaki M, Shiomi A, Kanamoto A, Miyake T, Furukawa S, Hiasa Y

### 国内学会報告

#### 第27回日本病態栄養学会年次学術集会(2024年1月26-28日, 京都)

- NAFLDに対する代謝改善/減量手術の有用性  
松浦文三, 中口博允, 井上理香子, 岡本全史, 金本麻友美, 塩見亮人, 宮崎万純, 三宅映己, 日浅陽一, 古川慎哉, 古賀繁宏, 吉田素平

- 非アルコール性脂肪性肝疾患の病態進展に關与する栄養指標の検討  
宮崎万純，井上理香子，岡本全史，金本麻友美，塩見亮人，中口博允，三宅映己，吉田理，徳本良雄，廣岡昌史，古川慎哉，阿部雅則，井上可奈子，竹島美香，永井祥子，利光久美子，松浦文三，日浅陽一

#### 第 20 回日本消化管学会総会学術集会(2024 年 2 月 9-10 日，沖繩)

- コアシンポジウム「消化管疾患治療学の新展開」  
酸分泌抑制薬抵抗性 GERD に対する治療法の検討  
林未来，富田英臣，山本安則，竹下英次，池田宜央，松浦文三，日浅陽一
- シンポジウム「食道アカラシアに対する内視鏡治療の課題と展望」  
POEM 治療成績から見た不応例の特徴  
富田英臣，林未来，山本安則，竹下英次，池田宜央，松浦文三，日浅陽一
- 若年者におけるアレルギー疾患の多様性と機能性ディスペプシア有病率との相関  
山本安則，古川慎哉，富田英臣，竹下英次，池田宜央，松浦文三，日浅陽一

#### 第 14 回肥満と消化器疾患研究会(2024 年 5 月 8 日，徳島)

- 減量手術後の 4 年の体組成の変化と総体重減少率(%TWL)に關連する因子の検討  
中口博允，松浦文三，井上理香子，岡本全史，金本麻友美，塩見亮人，宮崎万純，三宅映己，古川慎哉，竹下英次，阿部雅則，日浅陽一，古賀繁宏，吉田素平
- シンポジウム「生活習慣と消化器疾患の未来予想図」  
生活習慣病と消化器  
松浦文三

#### 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会(2024 年 5 月 17-19 日，東京)

- 愛媛県における糖尿病性腎臓病重症化予防の取組みーCOVID-19 の影響  
松浦文三，中口博允，金本麻友美，三宅映己，古川慎哉，日浅陽一，加藤ひとみ，原泰彦，稲田暢，藤堂裕彦，吉田直彦，扇喜真紀，宮内省蔵，南尚佳，酒井武則，川本龍一，菊池良夫，中西公王，宮岡弘明
- BMI 変化量が糖尿病発症に及ぼす影響についての検討  
岡野真大，三宅映己，岡本全史，井上理香子，金本麻友美，塩見亮人，宮崎万純，中口博允，小堀友恵，古川慎哉，阿部雅則，松浦文三，日浅陽一

#### 第 97 回日本内分泌学会学術総会(2024 年 6 月 6-8 日，横浜)

- NAFLD (MASLD)に対する代謝改善/減量手術の有用性  
松浦文三，中口博允，井上理香子，岡本全史，金本麻友美，塩見亮人，宮崎万純，三宅映己，日浅陽一，古川慎哉，古賀繁宏，吉田素平，押切太郎
- 糖尿病と肝線維化が非アルコール性脂肪性肝疾患の癌発生リスクに及ぼす影響  
塩見亮人，三宅映己，井上理香子，岡本全史，金本麻友美，宮崎万純，中口博允，渡辺崇夫，吉田理，徳本良雄，廣岡昌史，古川慎哉，阿部雅則，日浅陽一，松浦文三
- レムナントコレステロールが糖尿病発症に及ぼす影響についての検討  
金本麻友美，三宅映己，井上理香子，岡本全史，塩見亮人，宮崎万純，中口博允，古川慎哉，阿部雅則，日浅陽一，松浦文三
- 100 周年特別企画「日本内分泌学会支部会の歴史と 100 周年に向けた意気込み」  
四国支部の歴史と 100 周年にむけて  
松浦文三

#### 第 60 回日本肝臓学会総会(2024 年 6 月 13-14 日, 熊本)

- 特別企画 1: キャリア支援・ダイバーシティ推進委員会「Early Career Development member のためのキャリア支援企画」  
魅力あるチームづくりを目指して  
三宅映己, 廣岡昌史, 徳本良雄, 吉田理, 阿部雅則, 松浦文三, 日浅陽一

#### 第 130 回日本内科学会四国地方会(2024 年 6 月 16 日, 徳島)

- 高 Ca 血症の原因として牛乳の過剰摂取が考えられた 1 例  
蔭谷真由, 金本麻友美, 岡本全史, 塩見亮人, 宮崎万純, 三宅映己, 日浅陽一,  
中口博允, 松浦文三, 古川慎哉

#### 第 10 回肝臓と糖尿病・代謝研究会(2024 年 7 月 6 日, 淡路島)

- ワークショップ「肝臓と糖尿病・代謝学—臨床研究の最前線」  
糖尿病と肝線維化が MASLD 患者の肝関連イベントおよび肝細胞癌の発生に及ぼす影響  
塩見亮人, 三宅映己, 金本麻由美, 宮崎万純, 中口博允, 渡辺崇夫, 吉田理, 徳本良雄, 古川慎哉, 阿部雅則, 松浦文三, 日浅陽一

#### 第 24 回日本内分泌学会四国支部学術集会(2024 年 9 月 7 日, 東温)

- 異所性 ACTH 産生腫瘍と高 IL-6 血症を合併した褐色細胞腫の 1 例  
中平啓倫, 宮内省蔵, 明坂和幸, 大野敬三, 戎井理, 南尚佳, 三宅映己, 古川慎哉, 日浅陽一, 松浦文三
- チアマゾール内服中に TSH 異常亢進と FT4 抑制をきたした FT3 優位型バセドウ病の 1 例  
蔭谷真由, 三宅映己, 吉田圭佑, 塩見亮人, 宮崎万純, 中口博允, 南尚佳, 古川慎哉, 日浅陽一, 松浦文三
- 高 Ca 血症・腎障害を認めた副甲状腺癌の 1 例  
山口りさこ, 蔭谷真由, 吉田圭佑, 塩見亮人, 中口博允, 三宅映己, 古川慎哉, 南尚佳, 日浅陽一, 松浦文三

#### 第 67 回日本甲状腺学会学術集会(2024 年 10 月 3-5 日, 横浜)

- 甲状腺ホルモン剤を乱用した神経性やせ症の 1 例  
吉田圭佑, 蔭谷真由, 井上理香子, 金本麻友美, 宮崎万純, 塩見亮人, 中口博允, 三宅映己, 古川慎哉, 日浅陽一, 松浦文三

#### 第 42 回日本肥満症治療学会学術集会(2024 年 10 月 19-20 日, 横浜)

- 減量手術後 4 年の体組成の変化と総体重減少率(%TWL)に関連する因子の検討  
中口博允, 松浦文三, 井上理香子, 岡本全史, 金本麻友美, 塩見亮人, 宮崎万純, 三宅映己, 古川慎哉, 竹下英次, 阿部雅則, 日浅陽一, 古賀繁宏, 吉田素平

#### 第 34 回日本内分泌学会臨床内分泌代謝 update (2024 年 11 月 29-30 日, 名古屋)

- 生物活性の低い ACTH 分泌が疑われた下垂体腫瘍の 1 例  
村上慶匡, 蔭谷真由, 井上理香子, 吉田圭佑, 金本麻友美, 塩見亮人, 宮崎万純, 中口博允, 三宅映己, 古川慎哉, 日浅陽一, 松浦文三

**第 62 回日本糖尿病学会中国四国地方会(2024 年 12 月 6-7 日, 岡山)**

- DIHS へのステロイド内服中止後。意識障害で発見された高齢 1 型糖尿病の 1 例  
吉田圭佑, 塩見亮人, 蔭谷真由, 村上慶匡, 金本麻友美, 中口博允, 小堀友恵,  
古川慎哉, 阿部雅則, 日浅陽一, 松浦文三

**第 131 回日本内科学会四国地方会(2024 年 12 月 15 日, 松山)**

- 骨浸潤を伴う肝細胞癌で悪性体液性高 Ca 血症(HHM)を合併した 1 例  
谷本玲奈, 三宅映己, 蔭谷真由, 村上慶匡, 金本麻友美, 塩見亮人, 日浅陽一,  
中口博允, 古川慎哉, 松浦文三

# メディアでみる地域生活習慣病・内分泌学講座(2024年度)

【ラジオ糖尿病セミナー 放送 2024年5月2日 14:20~5分間】

## 2024年 第5回 「糖尿病の合併症」

ご出演：愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学講座 教授 まつうら ぶんぞう 松浦 文三 様

連絡先電話：090-2894-8462

Q:DAF 出しパッケージ タイトルコール 「ラジオ糖尿病セミナー」

提供クレジット 「このコーナーは【月ごとに変更】の提供でお送りします」

<正岡省吾> 成人男性の2割、成人女性の1割が糖尿病と言われる現代。  
糖尿病はどんな病気か、また、その予防法などについて知っていただくラジオ糖尿病セミナー。  
今日は 愛媛大学医学部 地域生活習慣病・内分泌学講座 教授

まつうら ぶんぞう 松浦 文三 先生と 電話が繋がっています。 松浦先生よろしくお願いします。

<正 岡> 今日は「糖尿病の合併症」についてお話を伺います。  
糖尿病は血糖の高くなる病気ですが、その合併症にはどのようなものがありますか？

<松浦先生> 糖尿病に伴って現れる合併症には、慢性の合併症と急性の合併症があります。糖尿病は血管の病気ともいわれますので、慢性の合併症には皆様が聞いたことがあると思います、脳や心臓、網膜や腎臓などの血管の合併症があります。これらは、大きな血管に起こるものと小さな血管に起こるものがあります。

<正 岡> 大きな血管に起こる合併症には何がありますか。

<松浦先生> 頭の中の血管に起こると脳卒中、心臓の血管に起こると狭心症や心筋梗塞、足の血管に起こると閉塞性動脈硬化症が発症します。ただしこれらの合併症は、糖尿病が発症する前から徐々に起こってきていますし、高血圧症や脂質異常症・たばこなどで、さらに発症リスクが増えてきますので注意が必要です。

<正 岡> 小さな血管に起こる合併症には何がありますか。

<松浦先生> これは、糖尿病特有の合併症と言われていて、糖尿病の三大合併症とも言われます。目の合併症、腎臓の合併症、神経の合併症があります。目の合併症は、物を認識する網膜の出血やレンズの老化である白内障などです。網膜の出血による失明は、成人の失明の原因の約15%を占めています。腎臓の合併症は進行すると、透析が必要になってきます。糖尿病は 新規透析導入の原因の第一位、約50%を占めています。神経の合併症は、足先のしびれ、痛み、また尿の回数や便通異常、起立性の低血圧などです。

- <正岡> 慢性の合併症を予防するにはどうすればよいですか。
- <松浦先生> 網膜や腎臓、神経の合併症を予防するためには、血糖の平均値を示すHbA1cを7%未満にすることが重要です。しかし、このHbA1cの目標値は、年齢や合併症の具合、お薬の内容によって、個々人で設定されるものです。主治医の先生と十分に相談して、治療・予防をしましょう。
- <正岡> では、急性の合併症にはどのようなものがありますか。
- <松浦先生> 急性の合併症には、高血糖と低血糖があります。高血糖の一つは、インスリン治療の必要な方がインスリン注射を忘れた、あるいはインスリン注射ができなかった場合に高血糖とともに体がアシドーシス(つまり酸性)に傾き、ひどくなると昏睡に陥ります。もう一つは、通常の2型糖尿病の方が、肺炎などの感染症や脳卒中、ステロイドなどの血糖を上げる薬剤服用、夏場の著しい脱水などをきっかけに、けいれんや手足の震え、昏睡を起こしてくるものです。
- <正岡> 低血糖はどういう状態ですか。
- <松浦先生> 低血糖は、糖尿病の治療でお薬を使用している場合には、どんなお薬でも起こります。インスリン注射はもちろんですが、経口血糖降下薬、特にダオニールやアマリールなどのSU薬で多く起こります。現在お薬を使用している方は、皆様注意してください。低血糖を頻回に起こすと認知症が進行しますし、低血糖昏睡では、死に至ることもしばしばありますので注意が必要です。
- <正岡> 急性の合併症も怖いですね。
- <松浦先生> 低血糖にしても高血糖にしても、意識障害を伴っているときには、速やかに糖尿病の専門医のいる医療機関を受診し、治療することが必要です。
- <正岡> それでは最後に松浦先生からリスナーへメッセージをお願いします。
- <松浦先生> 糖尿病の治療は、単に血糖値を下げるのではなく、今日お話しした合併症を予防し、健康な人と変わらない日常生活の質(QOL)や寿命を確保することです。主治医の先生とともに、合併症の早期発見・早期治療をしましょう。
- <正岡> 今日は「糖尿病の合併症」について愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学講座 教授 松浦 文三(まつうらぶんぞう)先生に お話を伺いました。ありがとうございました

**Q⇒DAF出しパケ** ここでお知らせです。1年に1度は血糖検査を受けましょう。

健康診断でも検査できます。血糖が高い方、高めの方は医療機関の受診をお勧めします。

また糖尿病を治療されている方は治療の中断をしないで下さい。

昨年度のラジオ糖尿病セミナーの録音を聞くことができます。愛媛県医師会の

ホームページにラジオ糖尿病セミナーのバナーがありますのでクリックしてください。

後クレジット

「このコーナーは【月毎変更】の提供と 愛媛県糖尿病対策推進会議の協力でお送りしました」

## 欧州内分泌会議(European Congress of Endocrinology: ECE) 2024

2024年5月10日から14日まで、SwedenのStockholmで開催された欧州内分泌会議(ECE)に現地参加してきました。ECEに現地参加するのは2019年のFranceのLyon以来5年ぶりのことです。この間は、Web参加で発表は継続していました。今回は、肥満外科手術例の「Characteristics of obese patients with body mass index (BMI) of >50 who opted for metabolic/bariatric surgery」と題して発表しました。発表内容に関しての質問は数個受けました。本学会の参加者は約4000名ですが、日本人にはほとんど会いませんでした。

Swedenは大小22万個の島からなる国で、国土全体が瀬戸内海の島並みのような感じでした。学会の合間に、食事付きのクルーズに参加し、楽しんできました。Stockholmの気温は東京より5度程度低く、湿度も低いため、非常に過ごしやすく、市内の公共交通機関(地下鉄、近郊電車、トラム、バス、船)はすべてSLアプリの乗車パスで乗れますので、非常に便利でした。ただし、物価と、taxが高かったです。

来年の欧州内分泌は、欧州小児内分泌学会との合同開催で、DenmarkのCopenhagenで2025年5月10日から13日まで開催予定です。

参加を考えておられる先生は、声をかけていただければ、演題を調整しますので、よろしくお願ひします。

### Characteristics of obese patients with a body mass index (BMI) of > 50 who opted for metabolic/bariatric surgery

Ehime University Graduate School of Medicine,  
Toon, Ehime 791-0295, Japan

Matsuura B, Nakaguchi H, Senba H, Kanamoto A,  
Miyazaki M, Shiomi A, Miyake T, Furukawa S, Hiasa Y



## 欧州消化器病学会週間(UEG Week) 2024

2024年10月12-15日に、オーストリアのウィーンで開催された UEG Week 2024 に参加してきました。ウィーンでの UEG Week は2016年に次いで2回目です。今回の国際学会は12年ぶりに若い先生(沼田先生)と一緒に参加しました。前回若い先生(上田先生)と一緒に参加したのは2012年の San Diego での DDW でした。

これまで代謝改善/減量手術のデータを国内外の学会で発表してきましたが、今回は「Usefulness of laparoscopic sleeve gastrectomy for NAFLD (MASLD)」と題して発表しました。手術前および手術1年後の fibroscan のデータから、CAP(dB/m)値は348から279に改善し、肝硬度(kPa)は12.1から7.6に改善した、という内容です。

ウィーンは日本より気温が5-10℃程度低く寒かったです。学会の合間には Schoenbrunn 宮殿や市内の音楽家の銅像を見学してきました。

次回は2025年10月4-7日にドイツのベルリンで開催予定です。



## 〈第90回〉ヘルスアカデミー 肥満とやせと健康と

■日時／2024年6月30日（日）午後1時～4時 ■場所／いよてつ高島屋9階ローズホール  
■募集人数／先着120名様（定員になり次第締め切らせていただきます）

肥満とやせは多くの健康障害を合併します。本講座では、自分の体を見つめ直し、ベストな体づくりができるよう今一度考えるきっかけになれば幸いです。

- 午後0時30分～ 開場・受付
- 午後1時～ 開会あいさつ ◎愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学 教授  
日本内分泌学会四国支部 支部長 松浦 文三氏



松浦 文三氏

### 第一部 講演

●午後1時05分～

- 講演1 肥満とやせの健康障害  
◎愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学 助教 中口 博允氏
- 講演2 肥満とやせの食事療法  
◎愛媛大学附属病院 栄養部 管理栄養士 竹島 美香氏
- 講演3 肥満とやせの運動療法  
◎松山市民病院 リハビリ室 理学療法士 中田 亮輔氏



中口 博允氏



竹島 美香氏

●午後2時15分～ 〈休憩10分〉

- 講演4 肥満の薬物治療  
◎松山市民病院 糖尿病・内分泌内科 医長 仙波 英徳氏
- 講演5 肥満の外科治療  
◎愛媛大学 消化管・腫瘍外科学 准教授 吉田 素平氏



中田 亮輔氏

●午後3時15分～ 〈休憩10分〉

### 第二部 Q&Aコーナー「あなたの疑問・質問にお答えします」

●午後3時25分～

- コーディネーター ◎愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学 教授 松浦 文三氏
- パネリスト ◎愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学 助教 中口 博允氏  
◎愛媛大学附属病院 栄養部 管理栄養士 竹島 美香氏  
◎松山市民病院 リハビリ科 理学療法士 中田 亮輔氏  
◎松山市民病院 糖尿病・内分泌内科 医長 仙波 英徳氏  
◎愛媛大学 消化管・腫瘍外科学 准教授 吉田 素平氏



仙波 英徳氏



吉田 素平氏

- 午後3時55分～ 閉会あいさつ ◎愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学 教授  
日本内分泌学会四国支部 支部長 松浦 文三氏

第90回愛媛大学ヘルスアカデミー/日本内分泌学会四国支部市民講座は、「肥満とやせと健康と」のテーマで、令和6年6月30日(日)13時から、いよてつ高島屋9階ローズホールで、愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学講座の松浦文三教授の世話人のもとで開催されました。70名以上の参加を得て、5題の講演とともに、多数のQ&Aで、盛会裏に終了しました。市民の皆様の「肥満とやせ」に対する関心の高さが感じられました。

第1部の講演の部では、まず愛媛大学内科の中口博允先生から、「肥満とやせの健康障害」について、肥満もやせも万病のもとであることを多くのデータをもとに講演いただいた。愛媛大学栄養部の竹島美香先生からは、「肥満とやせの食事療法」について、規則正しく適切な量をバランスよく食べることの重要性を講演いただいた。松山市民病院リハビリ科の中田亮輔先生からは、肥満もやせも筋量・筋力を維持することの重

要性、日常生活の中で活動量、筋肉運動を増やすコツについて講演いただいた。松山市民病院内科の仙波英徳先生からは、最近使用可能となったウゴービとアライを中心に、保険診療として処方される薬と薬局で自費購入の薬、糖尿病のある患者のみで使用できる薬と糖尿病のない患者でも使用できる薬、作用機序や効果の強さの違い、注意すべき副作用、などについて講演いただいた。愛媛大学外科の吉田素平先生からは、肥満の外科治療の適応となる患者、手術術式、術後の合併症、などについて講演いただいた。

第2部のQ & Aコーナーでは、会場からの多くの質問をいただいた。「個人にとっての適正体重とは」「二次性肥満ややせについて」「食事摂取量が少ない場合の工夫点」「栄養補助食品の使い方」「〇〇ダイエットの落とし穴」「運動は持久運動が良いのか筋トレが良いのか」「事務仕事中でもできる運動」「ウゴービが使用できる条件」「減量/代謝改善手術が可能な施設」「術後のリバウンド」などについて、講演いただいた先生方に答えていただいた。

今後も機会を作って、市民講座を企画したいと思います。

## 済生1142, 2024年

〔愛媛〕小田診療所  
「肥満」をテーマに5講演  
ヘルスアカデミーに80人  
6月30日、第90回愛媛大学ヘルスアカデミーがいよつ高島屋で開催されました。  
当診療所には愛媛大学大学院医学系研究科地域生活習慣病・

の面から講演を行ない、約80人の参加者はメモを取るなど熱心に聴講しました。  
後半には参加者からのQ & Aコーナーがあり、多くの質問に各分野の先生方が回答し、大変有意義な時間となりました。

〔済生記者 福岡博実〕



内分泌学講座「地域サブセンター」が設けられている関係で、同大の松浦文三教授と中口博充助教が毎週勤務しています。  
当日は「肥満とやせと健康と」をテーマに、松浦教授と中口助教に加え4人の講師が食事療法、運動療法、薬物治療、外科治療

## 第 20 回 愛媛大学卒後臨床研修指導医講習会を振り返って

愛媛大学 地域生活習慣病・内分泌学/第三内科 松浦文三

令和 6 年 9 月 28-29 日に愛媛大学で開催された第 20 回卒後臨床研修指導医講習会にタスクフォースとして参加しました。私は、平成 10 年秋に裏六甲山のふもとで全国臨床研修指導医養成講習会を受ける機会を得ました。講習会は、朝 8 時から夜 9 時 10 時まで過激なスケジュールが 5 日間続きました。当時、卒後臨床研修義務化が検討されていましたが、まだストレート入局時代で、私は一臨床医として研修医の指導を行っていた時期です。研修医への指導方法にも理論的な背景があることを勉強させてもらったように思います。また、いろいろなタイプの病院の、いろいろな診療科の先生が、いろいろな立場で研修医に関わり、いろいろな問題を抱えている、それらについて時には口角沫を飛ばしながら、毎晩遅くまで真剣に議論したことが思い出されます。次第に打ち解けあい、最後には、妙な連帯意識が生まれていたような気がします。

愛媛大学卒後臨床研修指導医講習会には第 3 回(平成 18 年)から今回の第 20 回(令和 6 年)まで、2 回は出張のために欠席しましたが、残りの 16 回はタスクフォースとして参加しました。10 回目くらいまでは、以前のストレート入局時代の研修指導方法を行っていた参加者がほとんどでしたので、「研修目標(GIO, SBOs)」「研修方略」「研修評価」の作成過程で、違和感や嫌悪感を抱く先生が多く見られました。特に 2 日間での時間に追われた講習会でしたので、じっくり考える間もなく終了してしまうこともその一因かと思います。その後は新臨床研修制度で研修した参加者がほとんどを占めるようになり、実際に研修目標を眼前に示されて研修した経験から、あまり違和感を持つことのない楽しい講習会の参加になったのではないかと思います。令和 4 年(第 18 回)からは本講習会のスタッフに総合臨床研修センターの内藤先生が加わりました。従来の教育理論に加えて、心理学的アプローチの重要性、実際の活用方法などを教えていただき、私たちタスクフォースも勉強させていただきながら、受講者にとってもより充実した講習内容になってきたと思います。今回の第 20 回の講習会では、従来の講習会にも増して各班ともに活発な discussion が見られました。

第 3 回(平成 18 年)の講習会後の感想文に、研修目標や方略・評価のプロダクト作成時に PC を導入することを提案しました。PC を用いれば、発表準備に時間を取られることなくグループ討論に集中することが可能で、しかも効果的なプレゼンが可能になると思ったからです。本指導医講習会では第 7 回(平成 22 年)から PC が導入され、また場所も基礎実習棟や研修センター棟でエアコンも効き、快適な講習会へと進化してきました。

新臨床研修プログラムで研修し、本指導医講習会で指導の理論根拠を獲得した医師が、今後の若い医師を牽引してゆくと思うと、愛媛の医師・医療は明るいものと期待します。本講習会の益々の発展を願って、お礼の言葉とさせていただきます。



# 愛媛大学医学部附属病院 地域医療支援センター

## 第13回地域医療再生セミナー



日 時 : 令和 6年10月31日【木】 14:30~17:30  
 会 場 : 愛媛大学医学部創立40周年記念講堂  
 オンライン : Zoomの参加URLは後日メールにてお知らせします

### 1 開会挨拶

愛媛大学医学部附属病院長

杉山 隆

### 2 地域医療支援センター活動報告

地域医療支援センター長

高田 清式

### 3 取組紹介

- ① 地域医療学講座の活動報告
- ② 地域医療再生学講座 令和6年度活動報告
- ③ 愛媛大学地域救急医療学講座の歩みとこれから
- ④ 『地域小児・周産期学講座 10年目の歩み』  
～子どもたちといっしょに私たちにできること～
- ⑤ シミュレーションで守る愛媛の周産期医療
- ⑥ 救急航空医療学講座活動報告
- ⑦ 地域生活習慣病・内分泌学講座 15年間の総括
- ⑧ 地域低侵襲消化器医療学講座 令和6年度までの活動報告

地域医療学講座教授

川本 龍一

地域医療再生学講座教授

間島 直彦

地域救急医療学講座教授

井上 勝次

地域小児・周産期学講座教授

檜垣 高史

地域小児・周産期学講座教授

松原 圭一

救急航空医療学講座教授

竹葉 淳

地域生活習慣病・内分泌学講座教授

松浦 文三

地域低侵襲消化器医療学講座

石丸 啓

### 4 討論会

～地域医療の充実・発展を目指して～

座長: 愛媛大学医学系研究科長

羽藤 直人

〃 : 地域医療支援センター長

高田 清式

### 5 閉会挨拶

愛媛大学医学系研究科長

羽藤 直人

### お問い合わせ

愛媛大学医学部附属病院 地域医療支援センター

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

TEL: 089(960)5990 FAX: 089(960)5759



# 愛媛大学医学部同窓会報 9号



松浦 文三 (昭和59年卒・6期生)

(愛媛大学大学院医学系研究科 地域生活習慣病・内分泌学 教授)

## 退任にあたって

2025年3月末をもって、愛媛大学 大学院医学系研究科 教授を退任することとなりました。愛媛県松山市出身の私は、1984年に愛媛大学6期生として愛媛大学を卒業後、第三内科に入局し、教育出張として済生会小田病院に3年余り、学位研究終了後に国立療養所愛媛病院(現愛媛医療センター)に3年余り、そして2000年に米国に1年間留学した以外は、33年間愛媛大学に在籍したことになります。現職の地域生活習慣病・内分泌学講座は、2010年から愛媛県内子町の寄附講座として担当しています。

研究面では、特に2000年の米国留学以後は、消化管ホルモンと生活習慣病に関して、基礎的臨床的研究を行い、モチリン-モチリン受容体結合機構、活性化機構の分子メカニズムを世界で最初に報告するとともに、ヒト消化管での発現様式、中枢との連関、グレリンやセロトニン、薬物、生活習慣病との相互作用について明らかにしてきました。

15年間の寄附講座では、内子町小田地区の診療支援にあたりるとともに、内子町の保健医療行政に協力し、内子町における高血圧症、糖尿病、慢性腎臓病の減少、医療費の減少に多少とも寄与できたと思います。

附属病院では、内分泌代謝・糖尿病領域の診療とともに、栄養部部長(兼任)、NST責任者、栄養療法外来責任者、肥満外科療法チーム責任者として、附属病院の栄養関連治療体制の確立・発展に注力するとともに、間脳・下垂体疾患センター長として、愛媛県下の間脳下垂体疾患診療の向上に寄与できたと思います。

以上を通じて、内分泌学会、甲状腺学会、糖尿病学会、肥満/肥満症治療学会、病態栄養学会で多くの専門医、指導医、学会評議員育成に携わりました。特に内分泌学会では12年間にわたり四国支部代表を務め、四国支部の活性化とともに市民公開講座の開催による市民啓発活動に注力しました。

私の医師人生を振り返り、今後の愛媛県、日本の医療を担う若い学生・医師へは、ぜひ留学を経験していただければと思います。基礎研究にしても臨床にしても、視野が広がります。英語が得意でなかった私は、最初ボスのいうことが理解できず、中国人の同僚に平易な英語に通訳してもらったことが懐かしく思い出されます。留学で知り合ったボスや同僚は一生の宝物で、帰国後もずっと連絡を取り合っています。

最後になりましたが、愛媛大学が今後益々発展することを願っています。

愛媛大学医学部同窓会会報 ● 9

## INVITATION 77

間脳・下垂体疾患センターの紹介

間脳・下垂体疾患に5つの診療科が連携して診断・治療へ

間脳・下垂体疾患センター センター長 松浦文三

間脳・下垂体は、頭の中でも奥の方にある領域です。この領域の疾患は、子どもの頃に発症することもあり、さらにこの領域はホルモン分泌などを担っていることから、産婦人科的な症状や泌尿器科的な症状が出ることもあります。そのため、内分泌内科と脳外科、小児科、産婦人科、泌尿器科という5つの診療科で構成されたのが間脳・下垂体疾患センターです。

間脳・下垂体疾患は、下垂体神経内分泌腫瘍などの腫瘍性疾患、下垂体炎などの炎症性疾患、下垂体卒中などの血管性疾患の診断、および機能の亢進や低下を伴うために機能診断が必要になります。治療に際しても疾患自体は内分泌内科や脳外科、機能異常については産婦人科や泌尿器科の診療科を超えた連携が不可欠なため、センターが関連する診療科を統括することでシームレスな治療体制を整えました。間脳・下垂体疾患の症状は様々なので、一度センターにご相談ください。この疾患の多くは難病指定になっているので、難病支援の申請推進はもちろん、患者さんの日常生活や社会生活を積極的に支援していきます。



### PROFILE

まつらぶんそう©1984年愛媛大学医学部医学科卒業。1985年~89年は済生会小田病院に勤務。1996年から当院第三内科に勤務。専門領域は内分泌、代謝、消化器。趣味は歴史小説の読書。2024年より現職。



間脳・下垂体疾患センター  
ホームページ



前回掲載記事  
肥満症外科手術認定施設

## 編集後記

2010年4月に開講した地域生活習慣病・内分泌学講座は3期、15年が終了しました。また、2025年3月で本講座の初代教授 松浦が定年退任となりました。

この度、当講座の運営に多大なるご協力をいただきました多くの方々からご寄稿を賜り、15年間の総括の記念誌を刊行することができました。厚く御礼を申し上げます。

講座開講15年間で、地域で、大学内で、教育・診療・研究活動は着実に進んできたと思っています。地域生活習慣病・内分泌学講座は内子町の要望により、今後も継続設置となっております。2025年4月からは三宅映己先生が講座の責任者になります。今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆となりましたが、皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

2025年3月末日

編集担当  
松浦文三